

県・市連携文化施設整備計画に関する県民意見交換会会議録（県南地区）

No.	意見の概要	県と市の回答
1	<p>AU（にぎわい交流館）は、音響や照明操作が外注になるため、マイクの具合が悪くても素人では対応が難しく、舞台設備操作を別途外注しなければならない、金銭的に負担が大きいので、施設に技術者を常駐させて欲しい。アルヴェは、演奏会などを開く時に、パイプ椅子を汗だくになって運ぶ必要があることや控え室、舞台袖がないなど使いづらい施設と聞く。</p>	<p>新施設の運営にあたっては、舞台機構や音響・照明設備を操作する専門スタッフを常駐させることを想定しており、また、十分な数の楽屋や広い袖舞台を備える予定であります。</p>
2	<p>アトリオンは、海外の著名なプロの音楽家などが気に入っており、ステージ、音響効果などがすばらしいとの評判である。主催者としては、座席数が700人と小さく、興行的には採算が取れないため、遠慮するケースもあると聞く。2,000人規模であれば採算が取れるとのことである。</p>	<p>ご意見のような考えから2,000席の高機能型ホールとしております。</p>
3	<p>ロックやポップスのコンサートによく行くが、ローソンやぴあでは、チケットがすぐに完売し、そのチケットが2倍、3倍で転売されている。若者が好むようなコンサートのキャパに見合う施設がほしい。座席数が、1,800人から2,000人になるとのことで、チケットを取得できるチャンスが増えると思っている。</p>	<p>この施設が整備されれば、若者に人気のあるアーティストの公演も増えると考えております。</p>
4	<p>先日、県民会館で開催されたコンサートでは、入場の際に免許証等で本人確認が必要だったため、キャッスルホテルまで入場待ちの行列が出来ていた。グッズ販売も初の秋田公演ということで、行列がすごかった。新しい施設には、そういった行列の待機スペースがあると良い。</p>	<p>エントランスロビーは、700㎡程度確保する予定であり、1,000人程度はロビーで待機できることになり、現状の県民会館のような状態にはならないと考えております。</p>
5	<p>秋田にはライブハウスが少なく、あっても350人くらいの天井が低いところしかなく、チケットも争奪戦になっている。400人～500人くらいのスタンディングのライブハウスが必要ではないか。東北では、仙台レンサが700人、仙台ピットが1,200人規模となっていて、そちらに流れていく。秋田の学生や若い人でロック好きの人は、地元でライブ会場がないため、仙台に行くことになるが、どうなのかと思う。</p>	<p>リハーサル室が数百人収容できる広さとなる予定であり、ライブハウスのような活用もできるものと考えております。</p>
6	<p>秋田は、ライブ会場が少なくパッとしないから、敬遠されると思う。新施設を作るのなら、アーティストにアピールをしっかりとやってほしい。</p>	<p>この施設ができた場合には、コンサートや芸術公演の開催を積極的に働きかけてまいります。</p>
7	<p>施設に親しみを持ってもらうために、ネーミングライツはあった方が良くと思うが、それ以上に愛称が重要ではないか。例えば、「あきたこまちホール」などはどうか。</p>	<p>ネーミングライツや愛称については、今後検討してまいります。</p>
8	<p>今後の意見交換会では、席数の決定にあたって、最初から決めたのではなく、興行的に採算の取れる2,000席という席数はプロモーターからのヒアリングによることなども説明すれば、参加者も納得感が得やすいのではないかと。</p>	<p>今後、このような意見交換会を開催する場合には、参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の概要	県と市の回答
9	<p>これまで、県のホームページにパブリックコメントなど県民からの意見を掲載しているが、こうした県民との意見交換か意見も掲載し、さらに意見を聴いた文化団体や演劇団体の数もお知らせすれば、説明に説得力があると思う。</p>	<p>参考とさせていただきます。</p>
10	<p>車椅子の方が入場に困らないように、障がい者団体から意見を聞いてほしい。</p>	<p>具体の設計の際には、参考とさせていただきます。</p>